

(2) 市民団体

さまざまな目的で活動しているNPO団体、子ども会や自治協議会などの地域の組織、PTAやおやじの会などの学校単位の組織など、規模も活動目的も多様な集団があります。なにかしらの集団に所属している市民も多く、中には複数の組織に関わっている人もいます。団体で活動することで、個人単位では成しえない活動の広がりや、コミュニティに所属することで得られる生きがいや充実感があります。

そのため、さまざまな団体が積極的に環境に関する情報を収集し、率先して環境にやさしい行動を実行するとともに、公民館や公園、河川などの地域の資源を活用して学びの場を創出し、環境活動に取り組むことが、未来へのちつなぐまちの実現につながります。

また、特に環境活動を専門として活動している団体については、環境教育・学習のプログラムや情報・機会の提供など環境啓発を行い、環境活動を広げるための自律的なリーダーの育成を日頃から意識して行うとともに、団体から講師を派遣し、他の主体の環境教育や環境保全活動を支援することが期待されます。さらに、分野を超えて団体同士が連携することで、多様な環境問題を解決するとともに、団体の後継者を育成し活動を継続していくことが重要です。

〈現状・課題〉

●市民団体の活動状況

市内には数多くの環境保全団体が活動しています。市で把握できていない団体もたくさんありますが、平成26年度には、193団体に活動状況のアンケートを行いました。環境保全活動の実施状況についてのアンケートの回答結果については下表のとおりですが（図表9）、同じ分野の活動であってもその取組みの内容は多岐にわたります。例えば「自然環境保護・生き物」1つをとっても、「クヌギの生長調査・勉強会」「ツクシオオガヤツリの保全活動」「宇美神社の樹洞見学」「樋井川清掃」「竹林で竹を切る、竹細工、筍堀り、竹でパンづくりなどの里山体験」「カブトムシの森の昆虫調査」「シロウオ保護活動」など取組みの対象も方法もさまざまです。その他の分野においても、「紙すきでハガキ作り、裂き紙でコースター作りなどのリサイクル体験」「病院・公園などでの植樹活動」「地球温暖化防止・エネルギーに関する講演」などが実施されています。このように、市民団体は、山、川、森、海、まちなか、公民館などあらゆる場所で、多様な視点から、各々のノウハウと専門性を活かし、工夫を凝らした活動を積極的かつ主体的に行っています。

（図表9）市民団体における環境保全活動の分野（複数回答）

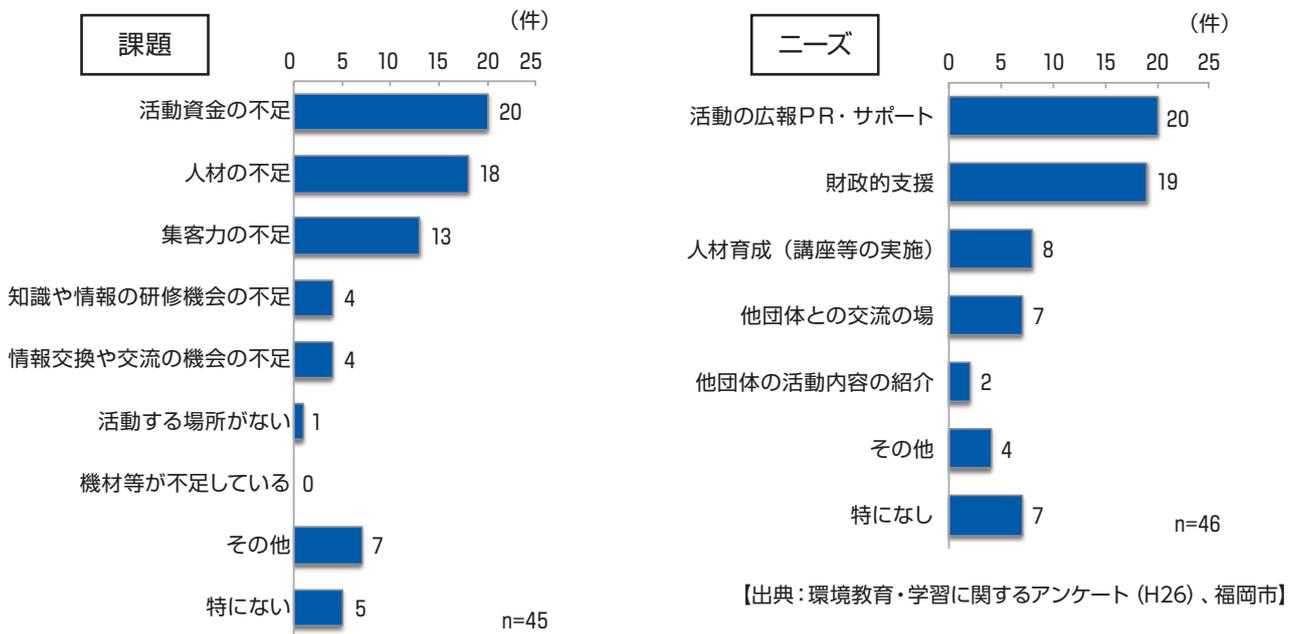


【出典：環境教育・学習に関するアンケート（H26）、福岡市】

●市民団体の課題とニーズ

「環境教育・学習に関するアンケート」(平成26年度)によると、「活動資金の不足(20件)」や「人材の不足(18件)」、「集客力の不足(13件)」が団体の主な課題となっています(図表10「課題」)。行政に求める要望としては、「活動の広報PR・サポート(20件)」が最も多く、続いて「財政的支援(19件)」や「人材育成(講座等の実施)(8件)」「他団体との交流の場(7件)」が求められています(図表10「ニーズ」)。特に人材に関しては、市民団体の中には高齢者が中心になって活動している団体も多く、若手の人材が特に不足しているという背景があります。また、市民団体へ行ったヒアリングの中では、分野を超えた団体間の共働・連携の促進を求める声がありました。

(図表10)市民団体の課題とニーズ(複数回答)



さらに進めて

課題を克服して

10年後の市民団体の姿

- あらゆる機会や媒体を活用し、自らの活動について広く発信することで、多くの人に活動について知ってもらうとともに、より多くの人を巻き込み、一緒に活動しています。
- 分野を超えて多様な団体が交流し、共働・連携による環境保全活動を実施しています。
- 講座の実施などにより人材育成に取り組み、活動が広まるとともに、活動やノウハウを受け継ぐ後継者が育っています。
- 広報面や資金面などにおける課題を克服し、ますます多くの環境保全団体が、あらゆる場所で、多様な視点から各々のノウハウと専門性を活かし、工夫を凝らした活動を積極的かつ主体的に行っています。



市民団体の取組み紹介



環境美化活動

地域清掃、海浜清掃、花いっぱい運動、花壇づくり、環境美化イベントの実施、らくがき消しボランティアなどの環境美化活動に、多くの団体が取り組んでいます。

「玄界校区自治協議会環境美化女性部」は、昭和30年以來、長きにわたり島内の清掃活動に取り組んでいます。定期的な海岸清掃は地域に根付いており、島民の2割近くの参加が見られ、仕事などで昼間に島を離れる人も多い中で、地域住民が集まる交流の場ともなっています。平成17年の福岡県西方沖地震の際も、「活動を途絶えさせない」という思いから避難先でも清掃活動を続けました。「漁船が浮かぶ朝の海は本当に美しい。この美しい自然を子どもたちにもつなげていきたい」という気持ちで活動に取り組んでいます。(右写真)



「特定非営利活動法人 グリーンバード福岡チーム」は、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに活動しています。まちの清掃を行うだけでなく、「まちを汚すことはカッコ悪いことだ。」というメッセージ発信型のプロモーション活動となっており、若者を巻き込んだ活動を展開しています。(左写真)



自然保護活動

里山保全活動、探鳥会、野生生物の調査、自然観察会、干潟の保全活動、農業体験、希少種の保護、ホタルの飼育と放流、水生生物調査、緑地保全活動など、多様な活動があります。

「日本野鳥の会福岡」は、野鳥の調査、探鳥会、会報の発行などの活動を行っています。また、小学校などでの自然観察会の企画・運営も行っており、ある時は「生き物の名前がわからないから、子どもに教えられない」という先生の声に応え、「生き物の名前を使わない観察会」を実施し、生き物の名前を知らなくてもできることを実践しました。(左写真)



「室見川水系一斉清掃実行委員会」は、年に1度、室見川水系河川の上流から

下流までを一斉に清掃しています。以前は流域住民やボランティア団体等がそれぞれ独自に河川清掃をしていましたが、「上流から下流までを一斉に清掃すれば、効率も良く、環境保護に対する意識も高まる」という流域住民の声をきっかけに、一斉清掃を行うようになり、今では約4,000名もの参加がみられます。(右写真)



ごみ減量・リサイクル活動

廃油石鹸作り、おもちゃの修繕、衣類のリフォーム、地域での古紙などの資源物回収、フリーマーケットの開催、牛乳パックの再利用などに取り組んでいる団体があります。

コンポストの普及(生ごみの堆肥化)には、「ふくおか環境倶楽部」や「特定非営利活動法人 緑のキャラバン隊」などさまざまな団体に取り組んでいます。「特定非営利活動法人 循環生活研究所」は暮らしに必要なものを地域内で循環させることで得られる楽しくて創造的な生活を“循環生活”と名付けて活動しています。コンポストの普及啓発に取り組むとともに、実際にショッピングインショップでの販売やレストランとの連携により、人・モノ・お金を生活圏でまわす「小さな循環ファーム事業」にも取り組んでいます。子どもが仕事の疑似体験により循環型社会を学ぶ「子どもくるくる村」などの活動も行っています。(右写真)



子どもくるくる村の実施



廃品回収の様子

「香住ヶ丘四丁目一区子ども会」では長きにわたり廃品回収に取り組んでおり、子どもたちが率先してトラックへの積み込みや拡声器でのアナウンスをしています。回収後、子どもたちが分別をすることで、環境学習の機会にもなっています。(左写真)

他にも、リサイクルボックスの設置など、地域における資源回収の取組みが実施されています。また、「NPO新聞環境システム研究所」では地域通貨を利用した新聞紙リサイクルのシステムを構築しています。新聞紙と引き換えに発行した地域通貨は、一部の交通系ICカードの利用料金に還元でき、資源の再利用とともに公共交通機関の利用促進にも努めています。

再生可能エネルギーの普及・啓発や、省エネルギーに関する活動



専門家による講習の後、質疑応答や自由な意見交換を行うことで、参加者が理解を深め、家庭で取り組めることについて考える機会を提供。

「福岡友の会」では、「我が家はエコの発信地 小さなことから始めよう」と呼びかけています。長年にわたって各家庭のエネルギー使用量からCO₂排出量を算出し、家庭でできる削減に努めてきました。エコに関する講習会・講演会でエコ生活を呼びかけ、今は保温調理器具「鍋帽子」を紹介するなど、家庭でできる省エネルギーの普及に取り組んでいます。(右写真)

再生可能エネルギーについての啓発活動や、省エネルギーの推進などの活動があります。

「低炭素社会推進福岡協議会」では、環境関連のさまざまな団体と連携協力することで、節電から、ごみの減量、リサイクルの推進、再生可能エネルギーの利用など、家庭のCO₂削減につながる「まるごとエコ推進」の啓発活動を行い、低炭素社会の実現を目指しています(左写真)。市民にとって理解することが難しいエネルギーなどの分野も、専門家との橋渡しを団体が担うことで、わかりやすく啓発しています。



エコな保温調理器具「鍋帽子」